●明治神宮

JR原宿駅、東京メトロ明治神宮駅で降りて神宮橋を渡ると右手に見えてくるのがこの大鳥居。高さ12メートル、幅17.1メートル、柱の太さは1.2メートルもあります。その重量は約13トン。木造の明神鳥居としては、日本一を誇っています。

●明治神宮御苑

江戸時代初期以来加藤家、井伊家の下屋敷の庭園でしたが、明治時代に宮内省の所轄となり、代々木御苑と称されました。苑内には隔雲亭、お釣台、四阿、菖蒲田、清正井などがあります。

菖蒲田の花菖蒲は、明治天皇が昭憲皇太后のために植えさせられたもので、現在も大切に守り育てられ、6月には見事な花を咲かせ、来苑者の目を楽しませてくれています。

●明治神宮の杜

明治神宮には一般に公開されている御苑のほかに、非公開の杜があります。航空写真などでみると社殿を囲むように深い緑に覆われた広大な自然林が確認できます。一見すると雄大な天然林のように見えますが、実はこの森は人が作り出した森なのです！

1912（明治45）年7月30日、明治天皇が崩御なされ、その後全国各地から御聖徳（明治天皇）をしのぶ声が上がり、その声に応えるように政府は翌年、「神社奉祀調査会」を組織し、鎮守の杜の候補地の選定を始めました。当時の記録によると全国各地の約40個所が候補地として挙げられましたが、明治天皇に縁の深い東京を念頭に、東京府内の陸軍戸山学校、白金火薬庫跡、青山練兵場跡（現在の神宮外苑）、代々木御料地の4個所に絞られ、最終的に代々木御料地に鎮守の杜をつくることになりました。この代々木御料地があった場所が、現在の明治神宮なのです。

●国立代々木競技場

1964年（昭和39年）の東京オリンピックの開催に備えて建設された国立代々木競技場は、同大会のサブ会場として使用されたもので、メインアリーナとなる第一体育館、第二体育館（別館）さまざまな競技が行われました。

オリンピック後も同競技場ではさまざまな大会が開催されています。また、第一体育館ではコンサートなどのイベント会場といても利用されています。

第一体育館は、NHKのお昼のニュースなどで映されているので見たことがある人も多いと思います。建築家丹下 健三氏の代表作で、美しい吊り屋根構造が特長です。第二体育館は円錐形の天井が見事な、すり鉢状の体育館となっています。

●岸記念体育館

岸記念体育会館（Kishi memorial gymnasium）は、第2代大日本体育協会（現在の公益財団法人日本体育協会）の会長だった岸清一の遺言により100万円（現在の約28億円）の寄付を受け、年1940年に東京府神田駿河台に建設され、1964年の東京オリンピックの開催に合わせ、現在の地に移転しました。

公益財団法人日本体育協会の本部が置かれているほか、各種競技団体の本部や事務所が置かれており、日本競技スポーツの総本山的な場所になっています。一方、建設から45年が経過している建物は老朽化が進み、耐震設計上の観点から心配視する声や疑問の声が上がっています。このため、すでに複数の競技団体が本部や事務所を移転させています。

2011年の日本体育協会創立100周年を機に建て替えの話もありましたが、現在の場所は東京都の都市計画公園の指定を受けている関係で建築物の規制が厳しいため、検討作業は難航しています。このため、他の場所に移転をするという話もあります。